

奈良・人と自然の会

新春雑感

会長 川井 秀夫



新年明けまして御目出度う御座います。今年もよろしくご支援の程お願い申し上げます。

昨年は年男の私としては何かにつけて期待の一年でしたが、申年は「荒れる」との言い伝えを裏付ける様に、イラク戦争の混迷は元より、天変地異に明け暮れ、私的にも植物中毒で全身に皮膚の炎症を起こし、忘年の酒も少しほろ苦かった様に思います。

今年は酉年。モノの記録を辿ると終戦の年が戦後最初のトリ年、57年はソ連がスプートク1号を打ち上げに成功、69年はあの安保闘争。時代は色々な事象を記録しながら過ぎてゆきます。本来、酉の字は酒の古字、象形文字は酒壺とか、新年は鶏の様にバタバタせず手枕（膝枕が良いかな）にゆったり気分で屠蘇を味わいたいと思います。

京都議定書による地球温暖化のCO2規制が、この2月から日本も重い腰を上げて発効する事になりました。アメリカは文明至上主義を盾に、頑なに受け入れる動きがありませんが、今年は環境問題が国際的にも日本国内においても大きな動きとして表面化する事が予想されます。議論は収斂されておきませんが、既に環境税の導入が現実味を帯び、わが奈良県においても森林環境税の導入が06年度より施行される動きがあり、われわれの諸活動も市民権を得る日が近づきつつある様に感じております。

当会も個性的な集団として、「前え前え」の精神で頑張っておりますが、反省点も多く今年度の課題として皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思っております。

何をおいても定例行事の継続であります。会員各位のご満足頂ける様な新鮮な企画の確立。第二には行政機関との疎通を更に推し進めること。第三には財政面の充実、新規加入者の促進、他力本願ですが公的機関の助成金、シニア大学 本部からの資金援助も注力すべき課題でしょう。

第四には社会活動の面でより広く関与し自然環境保全思想の啓蒙、市民に対する伝承者としての役割を果たすべきと考えます。最後に内外の活動グループとのコンタクトも必要に応じて取り組み、相互扶助と情報収集にも留意したいものです。

色々とお知らせしましたが難しく考えず、会員仲間との一期一会を大切に、我々のセカンドライフがより豊かに充実した一年であることを念願しております。

今年もお手柔らかに、WITH YOU の合言葉で頑張りましょう。

旅紀行(Ⅳ) クマゲラとアポイ岳を訪ねて(Ⅱ)

市村 米子

6月9日

高山植物の宝庫として知られているアポイ岳へ、3年前からお付き合いいただいているアポイを愛し高山植物の保護に力を注いでおられる高橋 誼先生の案内で登ります。

810, 6mと低い山ですが、特殊な地質カンラン岩と海からの濃い霧の影響よりアポイ岳で見られない固有種(ヒダカソウ、アポイカンバ、エゾコウゾリナ)や変種なども多く高山植物の群落は国の天然記念物に指定されています。ここでも心無い人たちによる盗掘や踏みつけ、また近年の酸性た。おや?エゾマツからひも状のものが絡まりあってぶら下がっています。樹状地衣類でヨコワサルオガセというそう。ヨコに環状の割れ目があり皆で引っ張ってみるとゴムみたいに伸びるではありませんか。これも植物?食べられるそうです。海岸からわずか4キロという近い所にそびえるアポイ岳では、海からの濃い霧が光を遮り気温を低下させ2000m級の高山と同じような条件を作り出しています。残念ながらヒダカソウの花は時期が遅く観ることができませんでしたが、可憐なサマニユキワリを始めアポイアズマギク、アポイキンバイ、アポイクワガタ、エゾコウゾリナなど名前を挙げれば切がありませんが、沢山のアポイ固有種や高山植物に出会えました。山を下りる頃には霧が出てきて、今登ってきたアポイの山が見え隠れしています。昨日の宿でお風呂をお願いし汗を流して気持ちイ〜。さーこれから札幌まで帰らなくてはなりません。急がなくては、でも運悪く霧が出て視界の悪い事。疲れた足に霧、運転ご苦労様でした。

6月10日

朝から雨が降り出しました。道立の野幌森林公園に伺います。公園内は大部分を国有林が占め、大都市近郊ながら自然休養林でさまざまな動植物が観察する事ができます。公園事務所の普及啓発員をしていらっしゃる若い濱本真琴さんに案内をして頂きました。立派なおオハナウドやサイハイラン、コケイランが雨の中の私達を楽しませてくれます。マムシグサもいっぱいです。濱本さんチョット立ち止まって「これは雄株・雌株どちらだと思いますか?」皆デタラメ?に「雄」「雌」と言い合いました。・・・見分け方がありました。筒ようになった苞の合わせ目の形です。雄株には水滴状の隙間があり、雌株では合わせ目はほぼぴったりとくっついていています。マムシグサに出会うたびに「これは雄株、これは雌株」と当てながら遊歩道を廻りました。皆さんもマムシグサを見つけたら試してみてください。案外当たる確率いいですよ。自然ふれあい交流館で一休みしていると雨もやみ、外に出るとホオジロも喜んだのか一段といい声で鳴き、ウグイスと鳴き比べをしているようでした。元気で明るい濱本さん、雨にもかかわらず色々説明ありがとうございました。

今回も諸先生方に大変お世話になり、おどけた姿のクマゲラさんとも出会えることが出来、幸せな旅であったことはいふまでもありません。また、悪化した環境に耐え抜いて生きる花たちの願いを察し、自然をこれ以上壊すことの無いようにと改めて思う旅でもありました。



雄株



雄花序



雌株



雌花序

11月例会 正暦寺 (佐保短大下車～鹿野園町～鉢伏町～正暦寺～円正寺)

阿部和生

キラキラと 紅葉まばゆし 藪の中…子規。

峠からスギとヒノキの森を下って、正暦寺を眼下にしたときの風景は、子規の歌った情景そのものです。初めて訪れる正暦寺は正門からでなく裏山からでした。境内の紅葉を觀賞し客殿福寿院に詣でお座敷より静かにお庭を眺めると低く作られた土塀越しに、あまたの紅葉が浮かび上がり庭の緑の老松や苔と対比され素晴らしい光景です。「オン コロコロセンダリマトウギ ソワカ」と真言を背後から受けると、しばしの静寂が打ち破られ現実引き戻される。敬意を表して90度向きを変え本尊 薬師如来を伏し拝み辞した。日本清酒発祥の地とか テントで美味しそうな銘酒が並んでいるのを横目でにらみ先を急ぎ橋を渡ると、タラヨウの太木雌雄が数本あり球果が群がって沢山ついているのを目にする。珍しい。私たち団体の皆さんが真剣に何かに目を凝らしています。その先にはジョウビタキが一羽 枝の先に止まり陽を浴びている。時々溝に降り立ち何かをついばみまた元に戻る。少しも物怖じしない、余りにも身近に見ることが出来る。「ジョウビタキは秋の季語縁起がいい」と川井会長に教わる。 ヒタキ美し 太陽を背に 飛び移り…原コウ子

彼女も同じ光景を目に焼き付けたのであろうか、羽色が美しく 下半身と尾がさび赤色で翼には黒くて大きな斑がある、このことから「紋付鳥」ともいい縁起のいい鳥となったそう。季語は面白いなあ！もっと知っていればなあ！とつくづく思ったものです。

この日午前中は、春日原始林を左に望見しながら登り道を峠に向かった。黄葉が次々と現れる。タカノツメ、コシアブラ、エノキ、クロモジ、ケヤキ、コナラ…それぞれの自己主張をしていて楽しい。ピナンカズラ、フユイチゴ、ツルウメモドキ…赤い実を見つけては喜んでた。何だろう？果実は赤くなり裂開した中からの光沢のある種子が二個ついていた、調べてみよう。その近くでアリオドシとメモしているが、アリドオシであった。鋭いとげがあり、丸くかわいい葉や赤い果実に思わず手が伸びると痛い目にあう。ツルアリドオシというのもあるそう。アリをも突き通す「とげ」と言うことでアリドオシは命名された、というのにこのツルアリドオシはとげがないという？。 ツルリンドウを見つければ、昨年見たときは青い葉の中にえもいわれぬ良い色であって感激したのだがこの日はそれほどには思えない。やはり見つける背景が大切なのだろうか、同じもののな。

鉢伏町の民家に大きなカラスサンショウがあり赤い果実の実を沢山つけていた。奇数羽状複葉の葉はときに1メートルにもなると書いてあるがそれほどでもない。でも大きな木であった。アベマキの太木がフジのツルに絡まれて悲鳴を上げていた。フジは私の腕よりも太い、これだけ食い込まれていると助からないだろうなあ 植物の世界も生存競争の現実があると教えている。

ゆったりとした時間は18名の参加者には、とてもよかった。あちらの話を聞きに行きこちらのそれに口をはさみ 小春日和の恵まれた一日でした。感謝！

12月例会 「談山神社より飛鳥」



12月6日好天。桜井駅より談山神社行きバス9時45分発。

沿道の桜並木の紅葉はすっかり落ちて、カエデ達が色あせながらも残っている。

多武峰（とうのみね）で下車して（10:25）東大門をくぐる。この参道はひっそりとした林と石垣を分けて上る旧道で、杉の大木などがそびえ、摩尼輪塔などが面影を残している。

談山神社は中臣鎌足（後に藤原姓）を祀る神社で、中大兄皇子と共に、蘇我入鹿を討つ為の談合をした所、すなわち「談らい山」より名づけられた。

桧皮葺きの本殿をはじめ、重文の十三重塔以下いくつかの建物があるが、特に紅葉の名所として有名である。

神主さん曰く、「まだ残っていますから、歩きまわってみてください」と、のたまわったごとく、盛りは過ぎてはいるが、まだ見るに値する風景である。

あれほどさんざめいた観光客が少ないのがいい。

メジロがやかましくサザンカの蜜を吸いに来ている。境内にはつぼみを沢山つけたシャクナゲの木も多い。

ここで私達にとって面白いものが見られる。「百味の御食（おんじき）」という供物である。毎年10月2日に嘉吉祭（室町、嘉吉元年に始まった）というお祀りが行なわれるのであるが、100種の山野の豊穡物を、藁のつとに100個づつ塔のように挿して供える様は、自然の恵みに結びついた土着の信仰が見られ面白い。

特に2000粒の米粒を3色に染めて、塔の形に貼り付けてあるのは、まるでビーズ刺繍である。

鎌足公の墓所の御破裂山（607m）で昼食をとる。陽だまりが暖かい。この高台より二上山、葛城、金剛の山々をはじめ、大和三山を擁する大和平野が一望のもとに眺められる。また、ここは人の手が入らない樹林帯として保存されている。ミズキの大木やカバノキ科のアサダなど見られる。サネカズラが多く、赤い実をぶら下げている。

フユイチゴの実をいただいてウグイスの地鳴きを伴奏に石舞台へと下る。

大小の石仏が点在する山道を下り、気都倭既（けつわき）神社あたりの山藤のつるに驚く。その太さと暴れ方は、樹に魂が宿ると信じた人々に納得させられる迫力で鬼気せまるものがある。

横を流れる冬野川にキセキレイ、カワガラスが道案内をする。コゲラ、ヒヨドリ、ジョウビタキも秋の実りを享受している。

ついこの間まで実と赤い紅葉で山を彩っていた一面の柿畑は、もうすっかり葉を落として、我が世の春を終えていた。

冬野や祝戸の鄙びた里の風景と、きれいに手入れされた棚田の風景を楽しんでいる内に14:00石舞台に着いた。

石舞台古墳を見学して、飛鳥駅まで更に歩き、15:40一応の解散としたが、今年最後の例会にて、このあと忘年会が持たれた。何度行っても心癒される我れらが和の里である。

西谷範子

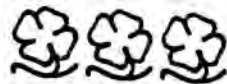
明けましておめでとうございます。今年はどうな初夢を見られましたか？ 以前は「富士、二鷹、三なすび」タカは富士山について縁起が良いとされました。多くのワシ、タカの中で環境の変化に対応し都会に進出出来たチョウゲンボウ、好き嫌いを云わず(?)何でも食べられるトビなどと対照的に「武士は食わねど・・・」と食材にこだわりすぎて個体数が激減したイヌワシ。生態系の頂点にいる猛禽類といえども明暗が分かります。

以前西大寺のウツナベで白く大きなものが変な動き！ 何とオオタカがサギを捕まえたところに出くわしたのです。凄惨な場面に遭遇しているのに、獲物が大きすぎて困った表情のオオタカの訴える様な目（に見えたのです）にちょっと笑いを誘われました。彼女が羽をむしるのにモタモタしていると忽ちギャラリーはカラスたちが大騒ぎ、後ろからおこぼ

れに預かろうとつつく者がいたりおちおち食事も出来ません。堪らなくなって重～い荷物を引っ下げて御陵の中に逃げ込みました。その時サギの足が黄色だったので獲物はコサギだと判りました。いつもは小鳥を捕らえるオオタカが自分より大きな大物狩りをすることもあるのですね。因みにカラスほどの小さいタカなのにオオタカと云われるのは「蒼い鷹」から変化したものと云われます。古くから、ハヤブサと共に鷹狩に重用されたタカです。



地域情報



◆天理ダム ヤマセミ (1) 須川ダム オオバン (9)

ヨシガモ (50)

12/8 小田

◆ジョウビタキの♂・♀が20cmぐらいの距離でなかよく(?)木にとまっていた。

いつ争うかと見ていたが、いつまでもじっとしていた。気がきついと言われ、

冬は1羽ずつが縄張りを持つというのに・・・(竜田川)家の近くに帰ってきたら、

ジョウビタキの♂・♀が縄張り争いをしていた。同じ日におもしろい光景を見ました。

12/7 勝田

◆ニューナイスズメが平群の柿の木に6羽ほど止まっていました。12/7勝田

「いこま棚田クラブ」1月、2月活動日 ご案内

活動日 : 1/10 (月) 1/16 (日) 1/24 (月) 1/30 (日)

2/6 (日), 2/14 (月), 2/20 (日), 2/28 (月)

集合場所: 近鉄生駒駅下車 南口側ケーブル駅西隣セブンイレブン前

集合時間: 9時 現地までタクシー他で移動

持物 : 弁当 (第三日曜日は炊き出しあり) 作業スタイル

作業予定: 里山の手入れ、椎茸づくり、竹林の手入れ、棚田の枯れ草焼却
花壇の手入れ、畑作物の収穫など

作業はご自分に適したところで、多数のご参加お待ちしております。

事務局 : 大寺道代

平成16年12月定例幹事会報告

平成16年12月3日(金) 奈良県女性センターにて、出席者 幹事 13名

議 事 「報告事項」

①会員数—90名、

②11月度例会 正暦寺自然観察

25日(木)晴れ 参加者 18名 好天に恵まれ紅葉やナンテンが映えた。

③忍辱山森林整備作業

11月9日、23日、実施 現在の進捗率 50%程度である。

来期の契約などを12月に当局と打ち合わせする

④いこま棚田クラブ

11月度4回実施 生駒市提供「猪よけネット」を地元のかたとともに張り巡らした。およそ300メートル。「そば」などの収穫を行った。

☆17年1月22日に「国際奈良学セミナーハウス」にて新春講演会を行う。

奈良教育大学名誉教授 北川尚史先生 午前、奈良公園観察会・午後講演会 小雨決行
オープン講座 無料とする。

「討議事項」

☆第4四半期(1~3月度)例会等 行事日程

幹事会…1月7日に企画会議として「女性センター」にてPM1時~4時

例 会…1月22日 新春講演会、2月9日野鳥観察会 崇仁天皇陵を中心として

なら忍辱山森林整備作業…1月15日、1月25日。 2月3日、2月19日

☆パンフレットの作成 早急に作りたい。会員の皆様のご協力を得たい

編集担当: 勝田 均

【当会の行事における傷害事故等については個人負担とし、当会は賠償等一切の責任は負いません】

奈良・人と自然の会事務所

会長 川井 秀夫



行事案内



【奈良忍辱山森林整備作業】

〈場 所〉 奈良市忍辱山国有林（集合場所より東海自然歩道を奈良方面へ約10分）

〈集合場所〉 忍辱山円成寺駐車場（バス停 円成寺口と忍辱山円成寺の間）

〈日 時〉 1月15日（土） 11時30分

1月25日（火） 11時30分

2月 3日（木） 11時30分

2月19日（土） 11時30分

（9時20分にはスタッフは駐車場に居ります）

【天 候】 午前6時 奈良県北西部に警報が発表されている場合は中止いたします。

〈交 通〉 奈良交通バス [邑地中村行き] 柳生方面

JR奈良駅③番乗り場

近鉄奈良駅④番乗り場

忍辱山円成寺

8:26

8:29

9:02

10:40

10:43

11:16

奈良交通 ☎0742 (20) 3100

〈持ち物〉 ヘルメット（防災用）・手袋・スパッツ・鋸・弁当・飲み物他

用具は当会にて多少は用意しております。

《未経験者には基本より指導致しますのでお気軽に。森林を楽しみましょう》

〈連絡先〉 弓場厚次

阿部和生

寺田正博

1 月度例会 「新春講演会と自然観察会」

1 日時 1月22日（土）AM 10:00～

2 場所 奈良公園・国際奈良学セミナーハウス

3 集合 近鉄奈良駅 行基菩薩像前 AM 10:00

（詳細は機関紙第35号に記載済みです）

2 月度例会 「野鳥観察会」・・・崇仁天皇陵を中心として

日程 2月9日（水）（詳細は機関紙第37号に記載します）

新春特別企画



ネイチャーなら

奈良・人と自然の会

新春講演会と自然観察会 ご案内

2005年の初春を迎え、昨年の春「奈良公園の植物」を著された奈良教育大学 名誉教授 北川尚史 先生に奈良公園の自然観察会と学術講演会をお願いしました。ぜひとものご参加を御待ち致しております。

記

日時：平成17年 1月22日（土）

場所：奈良公園・自然観察会と国際奈良学セミナーハウス

TEL 0742-23-5821

集合：近鉄奈良駅 行基菩薩像前 午前10時

演題：『奈良公園の植物』

講師：奈良教育大学 名誉教授 北川 尚史 先生

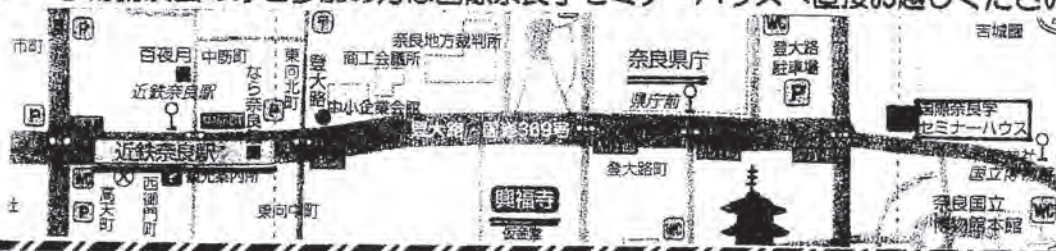
予定 10:00～12:00 奈良公園 自然観察会（小雨決行）

13:00～15:00 学術講演会「奈良公園の植物」

講師プロフィール

1935年 生まれ。1958年 京都大学理学部植物学科卒業。理学博士。
2000年 奈良教育大学 名誉教授。現 奈良産業大学 教授。

* 学術講演会のみご参加の方は国際奈良学セミナーハウスへ直接お越しください。



問い合わせ先 川井 秀夫